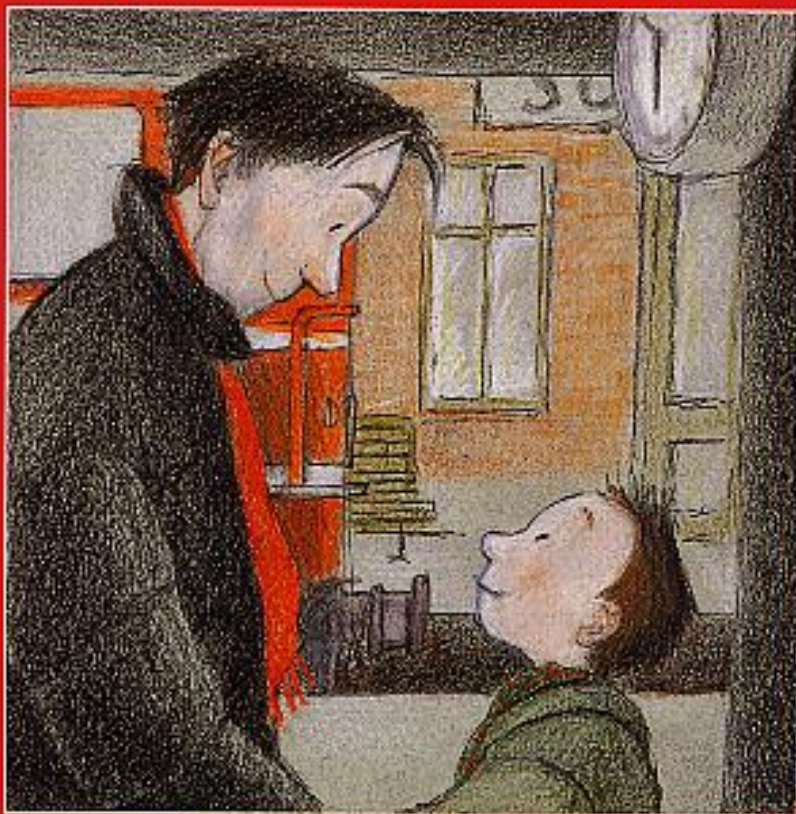


# パパは ジョニーっていうんだ



作／ボー・R・ホルムベルイ 絵／エヴァ・エリクソン  
訳／ひしきあきらこ

## 我的爸爸叫焦尼

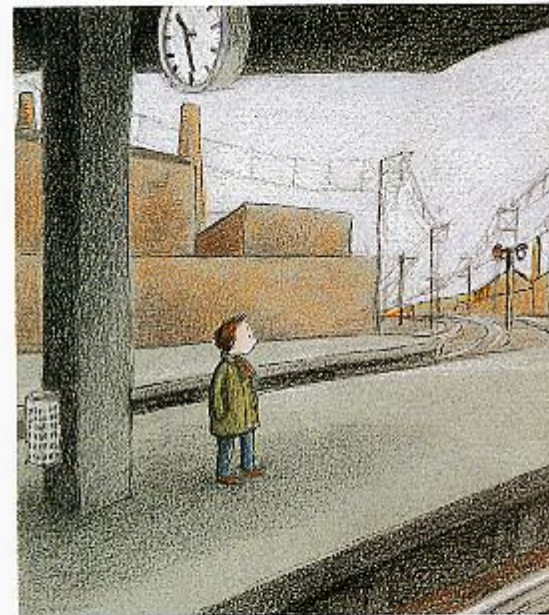
(瑞典) Bo R Holmberg 文  
(瑞典) Eva Eriksson 图  
彭懿 根据日文本译出

# パパは ジョニーっていうんだ

作／ボニー・R・ホルムベルイ 絵／エヴァ・エリクソン  
訳／ひしきあきこ

BL出版

EN BAK MID JOURNAY by the 3 Hainberg and Eve Enkova  
Copyright © 2002 not by the Hainberg  
Copyright © 2002 Enkova by the Hainberg  
Japanese translation published by the Hainberg with  
Akikata Publishing Ltd through The English Agency Japan Ltd.



もうすぐ電車がくる。パパをのせた電車が……。秋のはじめに、ぼくはママとこの町に引っこしてきた。あれからずっと、パパにはあっていない。でも、さようは一日、パパといっしょにすごせるんだ。「いい？ タイム。ジョニーがくるまで、ここでじっとしてるのよ」ママはこういふと、ぼくをホームにのこして帰っていった。ぼくのなまえはティム、パパはジョニーっていうんだ。

电车就要来了。爸爸坐的电车……秋天开始的时候，我和妈妈搬到了这座小城。从那以后，我一直都没有见到过爸爸。不过，今天我可以和爸爸在一起过一天。“你听到了吗，狄姆？焦尼来之前，你呆在这里不要动！”妈妈说完，把我留在站台上就走了。我的名字叫狄姆，爸爸叫焦尼。





やっとうちが来た。電車はフーッとため息みたいな音をだすと、ガタンと止まった。とおくから走ってきたから、くたびれちゃったのかな。  
ドアもスーッと息を吐いて、ゆっくりとひらいた。  
あっ、パパだ！ でも、ぼくはママにいわれたとおり、ホームでじっとしていた。

电车终于来了。电车“唉——”地发出一声好像叹气似的声音，“哐当”一下停了下来。是不是从很远的地方跑来，累坏了呢？  
门也“吱——”的一声吐了口气，慢慢地打开了。  
啊，爸爸！不过，我按照妈妈说的，站在站台上不动也没动。



するとパパがかけきて、ぼくをわっとなだめあげた。  
「ああ、ティム。やっとこられたよ。会えたかった。  
きょうは、ふたりでなにをしようか？」  
なにをしようか、だって？ だいじょうぶ。ぼくには、ちゃんとわかってる。パパとぼくがしたいことを、すればいいんだ。

于是，爸爸奔了过来，一把就把我给抱了起来。  
“啊啊，狄姆！我总算来了，我好想见你。今天，我们两个人干什么呢？”  
还用问干什么吗？放心，我知道。干爸爸和我想干的事，就行了呗。



駅をでると、ホットドッグ屋さんがあった。ぼくが立ちどまるとたん、  
「ホットドッグふたつ」とパパがいった。  
「ぼくのはケチャップだけ。マスタードはなしね」  
ぼくは、あわててつけたした。

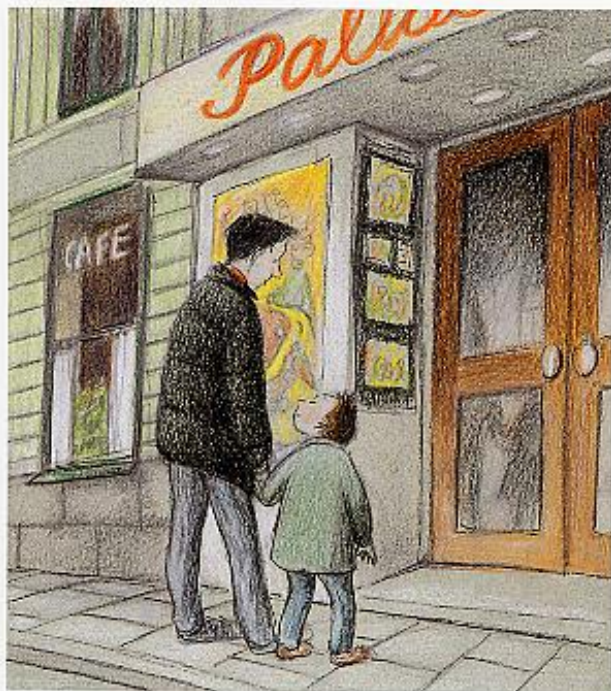
一出车站，就有一家卖热狗的小店。我刚一停下，爸爸就叫道：“给我两份热狗！”  
“我只要番茄酱，不要芥末酱。”  
我连忙补充说。



それから、ふたりでホットドッグをはおぼった。  
パパのほうか、さきにたべおわった。  
ぼくはパパをゆびさして、ホットドッグ屋のおばさんにおしえてあげた。  
「ぼくのパパだよ。ジョニーっていうんだ」

然后，我们两个人就大口大口地吃起了热狗。  
爸爸先吃完了。  
我用手指着爸爸，告诉热狗店的阿姨：  
“这是我爸爸，他叫焦尼。”





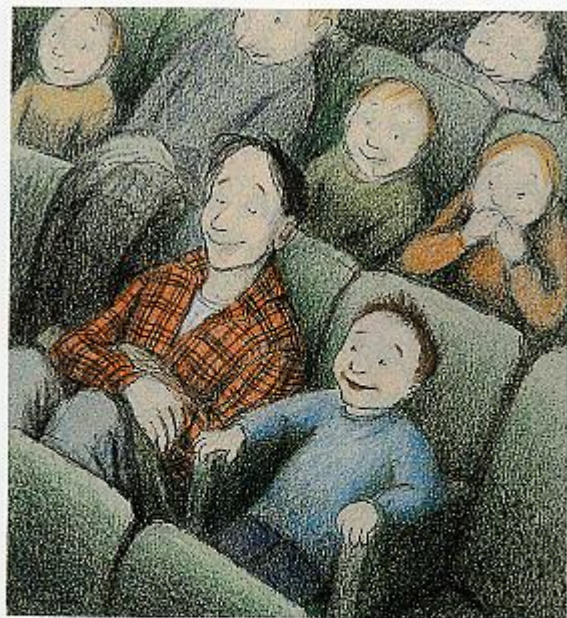
映画館へいくと、アニメをやっていた。  
「アニメ、好きだろ？」  
パパにきかれて、ぼくは大きくうなずいた。

到了电影院一看，正在演卡通片。  
“你不是喜欢卡通片吗？”  
爸爸这么一问，我使劲儿地点了点头。



入口できっぷをだすと、ひげをはやしたおじさんが、二まいまとめて  
ちぎってくれた。  
「ぼくのパパだよ。いっしょに映画をみるんだ」  
ぼくは、おじさんにおしえてあげた。

在入口，一个留着胡子的伯伯把两张票合  
到一起撕了。  
“这是我爸爸！我们一起看电影！”  
我告诉伯伯。



映画館の中はうすぐらいけれど、あたたかくて、とても気持ちよかった。  
 パパは、ときどきわらっている。のどがふるえるから、わかるんだ。  
 つられて、ほくもわらっちゃった。  
 映画が終わって、あかりがついたとたん、パパはほくの肩をポンとたたいた。  
 「さあ、ピザを食べにいくよ」

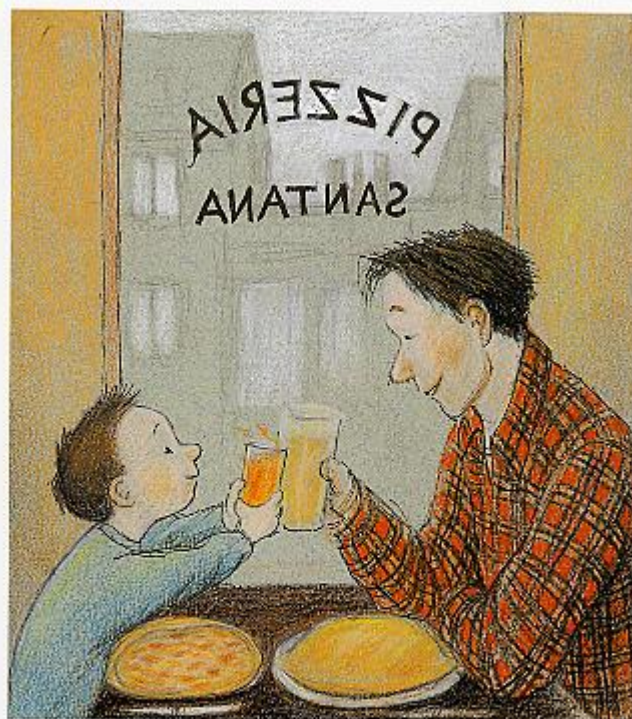
电影院里面虽然黑黑的，但非常暖和，舒服极了。  
 爸爸在不时地发笑。因为他的喉头在颤抖，所以我知道。  
 电影放完了，灯一亮，爸爸就“咚”地拍了一下我的肩膀。  
 “走，去吃比萨饼吧！”



レストランは「サンタナ」というなまえで、店員のおにいさんは、ほくとおなじアパートに住んでいるんだ。おにいさんはほくに気づくと、  
 「やあ、ティムじゃないか」と声をかけてきた。  
 「うん、きょうはパパといっしょだよ。ジョニーっていうんだ」  
 ほくは、うんと胸をはった。

餐馆的名字叫“桑达娜”，店员哥哥，是和我住在同一座公寓里的人。  
 哥哥一看到我，就叫了我一声：  
 “嗨，这不是狄姆吗？”  
 “唔，今天我和爸爸在一起，他叫焦尼！”  
 我把胸脯挺得直直的。





ほくはジュースと子ども用のピザ、パパはビールとカルツォーネをたのんだ。  
カルツォーネは、具が空地でくるんであるピザだ。  
ビールには、ぶくぶくあわがたっている。

我要了橘子汁和儿童比萨饼，爸爸要了啤酒和比萨卷。  
比萨卷是一种用皮卷着馅吃的比萨饼。  
啤酒在咕噜咕噜地冒泡。



ほくはピザのふちをまるく、おさらけにのこした。  
パパは、きれいにたいらげた。ビールもぜんぶ、のんじやった。  
「なかなか、うまかったな」パパが口をふきながら、さいふを  
とりだしたので、ほくは店じゅうにひびく声でいった。  
「ほくのパパが、お金をはらうよ！」

我把比萨饼的圆边都剩在了盘子里。  
爸爸吃得干干净净。啤酒也全都喝光了。  
“味道好极了！”看见爸爸一边擦嘴，一边掏钱包，我就用整个店里都能听到的声音叫了起来：  
“我爸爸要付钱啦！”





外にでると、すこしく暗くなっていた。パパが時計をみている。  
後になったら、パパは帰らなくちゃならないんだ。  
でも、いますぐじゃない。まだ時間がある。図書館へいこう。

出到外面，天已经有点黑了。爸爸看了一眼手表。  
到了晚上，爸爸就要回去了。  
不过，不是马上就走，还有时间。去图书馆吧！



ならんで図書館のいすにすわると、パパはざっしをめくりはじめた。  
ぼくは、ひざに本をのせたまま、かんがえていた。  
いま、なんじだろう。時刻がとまっちゃえばいいのに。  
電車も、うごきださないといい。

我们并排坐在图画馆的椅子上，爸爸翻起了杂志。  
我呢，我把书放在膝盖上，想开了。  
现在几点了呢？要是时间能停下来就好了。  
电车要是不开就好了。



ぼくはのっそり立ちあがり、本をかりにカウンターへいった。  
 パパもついてきた。  
 カウンターには腰をむすび、大きなめがねをかけているダニッラさんがいた。  
 とときき保育園にきて、本の話をしてくれるおねえさんだ。  
 「きょうはパパといっしょだよ。ジョニーっていうんだ。  
 本をかりるのはパパじゃなくて、ぼくだけど」  
 ぼくがパパをゆびさしながらいうと、ダニッラさんにはっこりわらった。

我慢吞吞地站起来，朝借书的地方走去。  
 爸爸也跟了过来。  
 扎着头发，戴着一副大大的眼镜的库妮拉  
 坐在借书的地方。  
 是常常到幼儿园来给我们讲故事的大姐姐。  
 “今天我是和爸爸一起来的，他叫焦尼。  
 不过，借书的是我，不是爸爸。”  
 我一边用手指着爸爸，一边说，库妮拉笑  
 了起来。



本をかかえて図書館をでると、  
 「帰るまえに、いっしょになにかのもう」とパパがいった。  
 ショッピングセンターのすみに、喫茶店がある。パパは、ケースの中が  
 よくみえるように、ぼくをきざきざあけてくれた。お金をはらうあいだも、  
 しっかりかかえたまま、はなまななかった。ぼくはアップルソーダと  
 小さなケーキ、パパはコーヒーとシナモンパンにした。  
 「もう、おもしろいよ」ぼくがいうと、パパはやっと力をゆるめた。

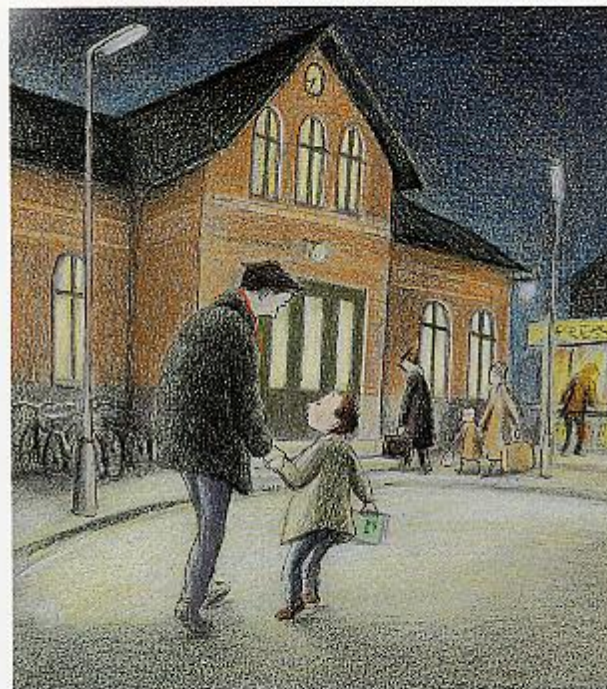
抱着书走出图书馆，爸爸说：“回家之前，  
 我们一起喝点什么吧！”  
 商店街一角有一家咖啡馆。爸爸为了让我看  
 清货架里的东西，把我抱了起来。付钱的时  
 候，也紧紧地抱着我。我要了苹果汁和小蛋  
 糕，爸爸要了咖啡和肉桂面包。  
 “把我放下来吧！”我说，爸爸这才把手松  
 开。





パパがコーヒーをのみおえると、いよいよ時間だった。

爸爸喝完咖啡，时间终于到了。



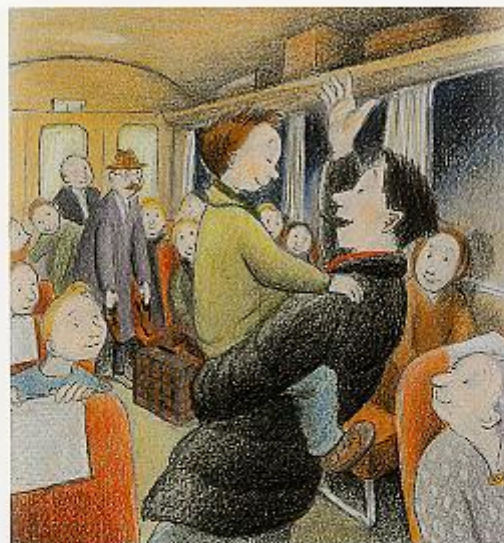
駅まで歩いていくあいだずっと、ぼくはパパの手をにぎっていた。  
 パパの手は大きい。ぼくの手がかくれてしまうくらい。  
 「パパの手、大きいね」ぼくはつぶやいた。

在往车站走的路上，我一直都握着爸爸的手。  
 爸爸的手好大，都能把我的手包住。  
 “爸爸的手真大呀。”我嘟哝道。



ホームまでくると、ぼくはパパにいった。  
「ママがわかえにくるまで、ここでまってるさき」  
するとパパはさっさとみて、「だいじょうぶ。まだ二、三分ある」  
といって、ぼくをかかえて電車にのりこんだ。

到了站台上，我对爸爸说：  
“我要在这儿等着妈妈来接我。”  
爸爸看了一下车票：“没事，还有两三分  
钟呢！”  
说完，抱起我就上了电车。



電車の中はもう、たくさんの方が乗っていた。カバンをたなにあげたり、  
コートをかけたりしている人もいた。くつをぬがうとしている、おじいさん  
もいた。パパは自分の座をたしかめると、きゅうに声をあげた。  
「みなさん、ちょっといいですか？」  
とたんに、ほかの人たちは手をとめて、パパをふりかえった。  
くつをぬいだおじいさんは、きょんととして、くつ下の足でつつ立っている。  
パパはかた手をひろげて、大きな声でつづけた。  
「この子は、ぼくの息子です。最高のいい息子です。  
タイムというんです！」

电车里已经坐了好多人。有的人在往行李架上放箱  
子，有的人在挂大衣。还有一位老爷爷正要脱鞋。  
爸爸找到自己的座位，突然大声叫道：  
“大家听一下好吗？”  
众人都停了下来，回头望着爸爸。  
脱掉了鞋子的老爷爷，愣住了，就那么穿着袜子站  
在那里。  
爸爸伸开一只手，大声地继续说：  
“这孩子，是我的儿子。最好的儿子。他叫狄姆！”





それから、パパはぼくをだきしめたまま、ホームにとびおりた。  
ぼくをまっすぐに立たせると、目をめぐい、「じゃあな、ティム。  
またすぐに会えるよ。ママがくるまで、ここでじっとしてあるんだぞ」  
といって、あわてて電車にもどっていった。

然后，爸爸抱着我下到了站台上。  
他让我站直，揉了揉眼睛：“再见，  
狄姆！马上还会见面的。妈妈来之前，  
你在这儿等着别动。”  
说完，就急忙回到了电车上。



電車がうごきました。  
まどのもように、パパがみえる。パパは手をふっている。  
ぼくも、大きく手をふった。  
パパの手は、どんどん小さくなっていく。

电车开了。  
看到车窗里的爸爸了。爸爸在挥手。  
我也使劲儿地挥手。  
爸爸的手渐渐地小了下去。



ぼくは手をふりつづけた。いねれたとおり、ホームからじつとうごかずに。  
かたほうの手に、図書館でかりてきた本をもって……。  
「ぼく、パパに手をふって、あおくってゐるんだよ。  
パパはジョニーっていうんだ」  
とおりかかったおじさんに話しかけると、おじさんはぼくをみて、  
うんうんとうなずいてくれた。



電車はあっというまに、みえなくなった。でも線路からは、  
まだかすかに音がつたわってくる。線路は、どこまでもつづいているから。  
パパの住む町までも、ずっと……。  
だから、いつかきくと電車はもどってくるだろう。  
ぼくのだいすきなパパをのせて——。パパはジョニーっていうんだ。

我一直挥着手。按照妈妈说的那样，一直呆在站台上。

另外一只手，拿着从图书馆借来的那本书。

“我在冲爸爸挥手，我在送爸爸呢！爸爸叫焦尼！”

我对从我身边经过的一位叔叔说，他看着我，点了点头。

电车很快就看不见了。但是从铁轨上还传来了轻微的声音。铁轨很长、很长，一直通到爸爸住的城市……

所以，电车一定还会回来吧？

拉着我最喜欢的爸爸——爸爸叫焦尼。





ISBN4-7764-0046-4

C8798 ¥1200E



9784776400462

BL出版

定価 本体1,200円+税



1928798012007